

丑年の今年も平和でありますように！

コロナ禍で緊急事態宣言が出ている最中ですが

「アトリエ・ゆう」と「ゆうの樹」を
今年も どうぞ よろしくお願ひします。

1月も早や終わろうとしています、新年のご挨拶をさせていただきます。

皆様は今年のお正月をどのようにお過ごしになりましたか？

元日はかなり冷え込みましたね。防寒をして外に出ると美しい月が目に入りました。今年の初日の出は、場所を変えて近くの西大宮の橋上駅から拝もうと足早やに歩いて行きました。駅には既に十数人が集まっていた。いつもなら、知らない人でも笑顔で挨拶するのですが、今年は静かに待つて居るといふ状況でした。でも、日の出が見えると「アァー」といふ心からの喜びが周りからも伝わって来て、いつもの新年と違ふ気持ちになりました。コロナのことを忘れた一瞬でした。その後、近くの氏神さまに参拝しました。

今こそ 宮沢賢治が書いた一文

世界が全体 幸福にならないうちは 個人の幸福はありえない

この言葉を嘔み締めながら、しんと冷え込む寒さにコートの襟を立てて気持ちを新たにしました。

アトリエ・ゆうも34年目の今年、新しいスタッフが二人増え、嬉しいスタートになりました。

昨年はコロナ禍のなか、**全国の小中学校が一斉休校**になり、子どもは勿論 全ての人々が思わぬ事態の中に置かれてしまいました。3ヵ月近い休校で、子どもたちは、入園・入学・卒業などの式典は行われず、何がなんだか分からないまま、不安な日々を過ごさざるを得なかったのではないのでしょうか。保護者も休校となると、今までの生活がガラリと変わり、行く行かないに拘わらず、学校の存在を改めて考える機会になったことと思います。

そんな時、「さいたま市の学校再開にむけて保護者の声を届ける会」が「**さいたま市の学校再開にむけてのアンケート**」（2020年5月26日～6月7日、回答192家族・児童生徒254名・教職員12名で10区を含む）を実施されました。そしてそのアンケートの取りまとめを「ぷらっとほーむ～さいたま不登校ネットワーク～」（アトリエ・ゆうも加入していて 2020年11月20日現在28団体）の代表の加藤文子さんが担当され、その結果のまとめをいただきました。（大変貴重な資料です。アトリエ・ゆうの事務所にありますのでどうぞご覧ください）その後、届ける会の皆さんが7月にアンケートの結果を教育委員会に提出され、懇談もされたということです。

アトリエ・ゆうは「今 出来ること！」を考え、スタッフ一同続けてきましたが、コロナ禍では集まることができず、収入の途も途絶えてしまい、皆様には大変ご心配やご迷惑をおかけしたこと、本当に申し訳ございませんでした。皆さんの励ましとご寄付も頂き、スタッフは緊急に集まり、こんな時だからこそ大事な居場所を止めてしまっては・・・、では継続するにはどんなことをするかなど、話し合いを重ねてきました。

不登校・引きこもりの居場所として、カウンセラーや専門家はいませんが、いつでも誰でもが気軽に立ち寄れる空間として、今まで続けて来られたこと、そのことを改めて自分自身に問うことにもなりました。

全てをコロナ禍のせいにはしたくありませんが、今年は日常の活動に、学習会、蚤の市などが開催できることを願っています。学習会には「チェロの演奏」をはじめ、候補がいくつかあり楽しみにしています。

尚今年度は「**食を通して広がる 繋がる**」をテーマに**助成金を 2ヶ所、申請**しました。現在、子ども食堂の活動が広がりつつありますが、今回は大人食堂としての申請です。

1ヶ所は1次審査が通り、1月25日のプレゼンで決まることになっています。大宮区の社会福祉協議会の方にもいろいろご協力いただき、本当に心強いことです。今、助成金がおりにることを信じてこの原稿を書いています。

又、**アトリエ・ゆうのホームページ**も若い人が担当していて、とても見やすくなりました。不登校などの相談の申し込みも受けることができます。カレンダーが載っていますので、活動日などを時々ご覧いただくと嬉しいです。

NPO 法人ゆうの樹は精神障害の方の支援事業として、仲間のみなさんとコスタリカ

産コーヒーの製造販売、古書販売、水耕栽培、喫茶店などを継続していきます。理事長の細谷浩司さんは昨年2月にコスタリカに行きました。コロナの感染拡大の前で現地の農場を見て、無事に帰国しました。今年も皆さんに美味しいコーヒーをお届けしたいと思います。古書の提供も有難うございます。

仲間が増えた嬉しいニュースです。私も関わっている「さいたま子ども劇場」が昨年12月に同じ事務所を使うことになりました。また「ぷらっとほーむ～さいたま不登校ネットワーク～」の皆さんも時々利用されています。お互いに情報交換しながら活動できることは楽しいことです。

「アトリエ・ゆう」の活動資金は会費、会費、寄付と年2回の蚤の市、コーヒー、乾燥糸こんにゃく、市田の干し柿、三陸のワカメなどの販売です。

「アトリエ・ゆう」も「ゆうの樹」も多くの方々のご協力とご支援があってこそ、今日まで続けて来られたこと、スタッフ一同心からの感謝を申し上げます。と同時にスタッフも自然体に関わり、楽しくほっとできる居場所であり続けたいと願っています。

皆さまのご健康を祈りつつ、これからもなにとぞよろしくお願い致します。

(本居 麗子)